

NTT西日本 年明け早々から格納庫取り壊しの方針 ～阻止へ署名運動を開始～

旧海軍の格納庫を所有するNTT西日本は年明け早々に格納庫の取り壊しにかかることを通告してきました。わが市民の会はただちにNTTへの抗議声明を記者発表するとともに、11月はじめから署名運動を始めました。鈴鹿市民だけでなく、全国の人たちに訴えてNTTに再考を求める考えです。また、NTT研修センター跡地利用をともに進めてきた鈴鹿市とUR（都市再生機構）にも結果を届けます。署名集めへのご協力を心からお願いする次第です。（第1次締め切り(11月30日)、第2次締め切り(12月15日)）

格納庫保存署名のお願い

鈴鹿市のNTT研修センター跡地にある旧海軍の格納庫について、貴社は来年1月から取り壊しにかかり、3月末までに撤去を完了するとの方針を決めました。3棟連なる格納庫は全国でも例がなく、極めて貴重な歴史遺産です。そして、軍都として誕生した鈴鹿市の生き証人のような建物です。

いまでこそ、民営化した貴社の所有となっていますが、元は旧海軍の財産です。国の財産、国民の財産という性格を色濃く帯びた土地と建物です。

悲惨な戦争と平和の大切さを語り継ぐために、この格納庫を平和教育の場として活用してきましたし、これからも活用していきたいと思えます。また文化、スポーツ、福祉、防災など多様な活用もできます。構造設計の専門家は耐震補強に太鼓判を押しています。取り壊すのは愚策というほかありません。

「保存して活かす、活かして保存する」。そうすれば、全国の人たちがこの格納庫を訪れ、鈴鹿市を全国に発信できる施設になることは間違いありません。その可能性を、その夢を、そして平和教育の場をどうか奪わないでください。

鈴鹿市内のNTT西日本鈴鹿研修センター跡地に残る旧海軍航空基地格納庫保存をめぐる問題で、「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」（加藤三子、竹内宏行共同代表）は19日、来年1月から取り壊しの方針を伝えてきたNTT西日本に対し、抗議声明を出す考えを明らかにした。20日、声明を同社に郵送する。（佐野登）

NTT跡地の旧海軍格納庫 年明け取り壊し方針 「市民の会」が抗議へ

声明は、旧格納庫の取り壊し、撤去の方針を受けて、「差し止め訴訟を含む可能な限りの手段で取り壊しを阻止する覚悟」としている。「格納庫保存の是非を問う市長選、市議選が来春実施され、それまで壊さないでほしい」と求めてきたが、民意を無視し、取り壊しを前提に記録、調査をする」との連絡があったという。「調査について、要望があれば検討する」などと記されていたが、取り壊しが前提では折り合えないとして共同代表の2人が15日、大阪市のNTT西日本本社に出向いて再考を求めたが、竹内代表によると「社で決まったこと」と聞く耳を持たずではなかった。

同会は「3棟連なる格納庫は全国でも例がない。貴重な歴史遺産で、軍都として誕生した鈴鹿市の生き証人のような建物として保存を求めてきた。会員は現在116人。跡地開発は市、NTTなどがまとめた土地利用転換計画に基づいて独立行政法人・都市再生機構（UR）が実施する。防災公園（7・3）と市街地（17・6）を整備する計画で、同市議会は今年6月に防災公園をURが市に代わって施工することへの同意や区域決定など市が提案した。取り壊しの日程が決まった旧海軍航空基地格納庫―鈴鹿市白子町」

3議案を可決。格納庫の取り壊しが現実的なものとなり、同会は川岸市長に再考を求める要望書を提出したが、格納庫を記録保存し取り壊す方針に変化はなかった。

NTT側は「9月30日時点で（格納庫を活用する）事業者がいなかった場合は撤去の判断をする」としていたが、結局、事業者は現れなかった。

鈴鹿海軍航空基地は第2次大戦前の1938年に開設された。同会は9月20日、「伝統を未来につなげる会」代表の建築家増田一真さんを招き、「壊すより活かして使う時代」と題した講演を聞いた。格納庫を見学したりした。増田さんは「様々な使い道が考えられる大空間を消滅させてしまつのは愚か」としている。

「平和館」「芸術文化館」「スポーツ館」など活用プランを提起

「保存して活用する」「活用して保存する」。そんな市民の会の思いを形に表そうと、格納庫活用プランの試案を作成しました。例えばこんな風に使えるという問題提起です。会員の中から、経営採算面も考えて、ショッピングセンターなどにし、そこに文化施設をかませるといった案も出されています。

だれが造り、運営するのか、資金はどうするのか、詰めるべき点は多々あります。ただ、壊されてしまつては元も子もありません。夢も描けません。署名集めの一助にさせていただければと考えました。活用プラン試案を紹介します。

●「すずか平和館」 第3格納庫 (3340㎡)

□軍都から工都へー平和ミュージアム

- ・ 鈴鹿市の誕生を戦争関連資料で紹介するとともに、戦後の自動車産業、モータースポーツの発展をたどる
- ・ イベント広場・市民交流広場（さまざまなイベントを催すことのできる空間。子どもからお年寄りまで交流できる広場）
- ・ 鈴鹿の観光と物産コーナー、レストラン

●「すずか芸術文化館」 第4格納庫 (1653㎡)

□市民ギャラリー

- ・ 絵画、陶芸、彫刻、写真、書など美術関係者の発表の場、総合資料館
- ・ 郷土資料、公文書、古文書などの保存、展示

□小ホール

- ・ 音楽、演劇などの練習、発表の場

●「すずかスポーツ館」 第5格納庫 (3340㎡)

□ハンドボール、フットサル、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントンなどの室内競技場

□災害時の避難所・備蓄倉庫

【短歌で保存を訴える】

鈴鹿市議会の6月定例会は格納庫取り壊しの関連議案を審議、可決しましたが、傍聴した女性会員の一人が「格納庫」と題する短歌を詠み、会に届けてくれました。市長と一部の幹部職員、全市議に送りました。

《格納庫》

- ・ わが町の戦争遺跡を残したし土地開発に待ったをかける
- ・ 唯ひとつ国に残れる格納庫文化遺産に匹敵をなす
- ・ 戦争の遺跡を壊し開発を進む行政利益を重んず
- ・ 戦争を語り継ぐ意味訴ふる議員の質疑は遺跡の保存
- ・ 格納庫の解体案は市の意向市議の質疑にエールを送る
- ・ 古きものを活かして使ふ知恵のなし市長は格納庫の解体通す
- ・ 食ひ下がる市議の保存案に分のありき市長の答弁歯切れの悪し
- ・ 想像力乏しき子らの教材に格納庫これに勝るものなし
- ・ 戦争の風化進みぬ鈴鹿市の航空基地の跡消えむとす
- ・ あつけなく可決されたり市の議案保存の訴へに聞く耳あらず
- ・ 若きらに語り継ぐべき戦争の史実風化の一途をたどる



「壊すより活かす時代」と増田一眞さんが講演 ～見学の場で活用をめぐり「路上討論会」～

「格納庫を見て建築家の話を聞く会」を9月20日、鈴鹿市旭が丘公民館で開きました。会員のほか、格納庫を間近に見て暮らしている旭が丘地区の住民ら約80人が参加。「壊すより活かして使う時代」と題する構造設計の第一人者、増田一眞さんの講演を聞きました。

格納庫敷地内へ入ることはNTTに断られたため、講演のあと旭が丘小学校側と鈴鹿高専側から格納庫を見学しました。鈴鹿市内の戦争遺跡を調査、研究している白鳥中教諭、浅尾悟さんらが解説。鈴鹿高専側では、今後の活用法などをめぐって参加者同士が熱心に議論する「路上討論会」となりました。

【増田さんの話(講演要旨)】

建築は所有者が誰であれ、社会的資産としての側面をもっています。個人住宅でも耐久性の必要性はこの側面からきています。まして、太平洋戦争での軍の施設となれば、市民の共通目的に活用することは重要な事柄です。日本人全体の多大な犠牲を伴った出来事が太平洋戦争だったからです。

活用して市民活動を中心とする多目的空間にするという目標は極めて大切な事柄であると言えます。どんな用途が考えられるのかというと、例えば、市民劇場や、市立の美術館、博物館、図書館、更には学校や幼稚園、老人ホーム、あるいは不要な資材を預かる貸し倉庫としても、木材を保管する倉庫としても使えます。これは既存建物をシェルター(外力に耐える構築物)として利用できるという事実から来ています。内部を木造多層空間に区画して利用できる可能性を最大限に活かせるからです。

内部の木構造を耐震的に構築して、外殻と結合することで耐震性は充分満たされます。更に大事なことは、今世紀半ばまでに予想されている大災害の防災拠点ともなりうるという事実です。屋上は、そこを大津波の避難場所に利用できます。建物の屋上は水平な床を創れば日常的にも利用できるし、尚有効になります。建物を改造して利用することまで含めるともっと可能性は広がります。例えば、1階を鉄筋コンクリート柱造とし、既存全体をその上に持ち上げてしまうことも出来ます。現状のままだと、3層木造が限度ですが、コンクリート造で1層足せば、4層に使えます。

このような可能性を追究していても、こわして新しくつくることに比べるとはるかに安上がりにつきま。一度創ったものは大事にして何度も利用するというやり方は、わが国の伝統構法では日常茶飯事に行われていたことです。

《参加者の感想》



- ・壊して建てるより安上がり。それ以上に「格納庫自体が生きる」ということの大切さをかみしめたものです。(60代女性)
- ・日本全国にこのことを発信して、三重県内だけにとどまらず署名などが必要だと思う。つい昨日、伊勢湾マリンフェスティバルにて海上自衛隊の方とお話しました。広島のお呉市の方でしたが、鈴鹿の事情を知っておりました。やはり全国レベルでPR活動をしてみなさんを動かすべきだとおっしゃってました。(40代男性)

- ・現在の所有者はNTTであるが、元は軍が白子の住民から取り上げたものである。戦争の目的が失われたとき地元に戻すべきだった。戦後、国有地を電気通信省へ、次に電電公社へ移し、民間会社NTTは資産を株式会社化した。研修所も終わり、目的を失ったいま、地元は無償で返還すべきで、土地売りによる利益を求めるべきでない。(70代男性)
- ・格納庫保存はこれからの子どもたちに何のものにも変えがたい異物、遺物として心に残るものではないかと思う。先代が造ってきた貴重なものはぜひ残すよう働きかけていただければ。このような運動は価値あるもので、みなさんによりアピールしていただきたく思います。(60代男性)
- ・戦争には良いものはありません。しかし、いまあるのはその時代の人々のおかげです。戦争に関係したものを一つでも財産に変えてこれからの人々に残し、伝えてゆくことが私たちの役目だと考えます。(60代女性)
- ・鈴鹿市が軍都であったことを初めて知りました。津市に香良洲歴史資料館がありますが、戦争を知ろうと貴重なものがあります。鈴鹿市が軍都であった以上、格納庫は保存する必要があると思います。(80代男性)
- ・昭和37年、鈴鹿高専仮校舎として利用、その後は富士電機の倉庫となったときもあったが、構造上問題がなければ体育施設としてぜひ活用してほしい。(70代男性)
- ・増田さんの講演は多少専門的になったので、一般の人にはわかりにくいところがあったが、内容はきわめて大切なものであった。利用方法を広く公募してはどうか。具体的なイメージが浮かべば、多くの市民の関心を得ることができる。(70代男性)

鈴鹿市白子町に残る旧鈴鹿海軍航空基地格納庫群の保存を、市民らが市に訴えている。内部に柱がない特殊な構造に加えて、格納庫3棟が並び立つ光景は全国的にも珍しい。現在の所有者、NTT西日本は鈴鹿市、都市再生機構（UR）と一体になった再開発を計画。今年の6月市議会で、URによる工事の直接施工の同意案など3議案が通過したことで格納庫取り壊しは事実上可能となったが、市民らは今後も保存に向けた取り組みを続けるとしている。(鈴鹿市政・二反田恭子)

旧鈴鹿海軍航空基地格納庫問題



見学会に先立って、齋宮体験館の設計にも携わった構造設計家の増田一真さん（むらた）が講演した。鉄骨建築の内部を木材で補強した全国の実例を紹介した同氏は、格納庫についても「内

部を木材で補強すれば耐震性は十分満たされる」とし、その費用について「現在の建物と壊し、新規に建てるよりはるかに安上がり」と述べた。

さらに総面積八千平方メートル、体積では九万立方メートル、及ぶ広大な格納庫の可能性について、「三層分は使える大空間。コンクリート造の一層足せば四層分使える

戦後、旧鈴鹿海軍航空基地跡の所有権はNTT西日本へと移管され、格納庫は旧NTT鈴鹿研修センターの倉庫として使われてき

る。耐震補強をすれば、幼稚園でも学校、ショッピングセンターも開発後、NTT西日本と市などが周辺の利用をめぐる施設として再利用できる」と指摘した。

その後、現地で実施された見学会では、公開コンペで格納庫の新たな活用法を公募したらどうか一などの意見が参加者から出された。会員の一人は「単に建物を残せと言っただけでは、関心のない人は保存運動に

乗ってこない。ここでこんなことができると、目に見えるプランを提示することが、次につながるのかも」と話し、今後の活動への指針を見いだしていた。

置付け、一体的な開発を進めることとなった。NTT西日本は当初から格納庫を解体する意向だった。同会からNTTに代わって保存を求められた市は、「健康・福祉ゾーン」として、費用対効果などを理由に難色を示したという。今年六月議会の川岸光男市長



市民らが参加して行われた格納庫見学会＝20日、鈴鹿市白子町で

なく再利用が可能と言及。さらに昭和十三年に建てられた格納庫が約七十年、風雪をしのいできた経緯から「災害時の防災拠点」としての利用価値も新たに示した。講演会後の見学会では、格納庫が避難所として活用された伊勢湾台風時のエピソードも披露された。研修センター跡地開発を進める三議案が通過した六月市議会以降、NTT西日本側は九月三十日時点で、活用する事業者が不在の場合、格納庫撤去の判断をする」と通告してきた。しかし同会では当面、市長・市議選がある来春までの「延命」を求めている。

議案通過後も市民訴え

【戦争体験聞き取り】

私の勤労働員の思い出

佐藤昌平さん(81)＝鈴鹿市江島本町

学徒動員の思い出については会報8号で同級生の山口俊彦さん・中村純伊知さんが詳しく述べられていますので個人的なことに留めます。

私は昭和18年旧制三重県立神戸中学校(現神戸高校)の2年生でした。勉強の傍ら毎日厳しい軍事教練で鍛えられました。また、農繁期には農家の労働力不足を補うため慣れない農作業にも従事しました。一般家庭では白いご飯を食べることが難しい時代に白米のおにぎりを腹一杯頂戴したことを懐かしく思い出します。

昭和19年になると太平洋戦争末期で学校へは登校せず、毎日、三菱重工業航空機整備工場(現・国立鈴鹿高専付近)に動員され、4～5人の従業員の班に配属され、班長の指示に従って不良航空機の整備に従事しました。なにしろ14～5歳の子供が大人社会に入れられての毎日で良いことも悪いこともいろいろ教えられました。そんな中で学徒動員生を監督指導するため学校から教官が配属され、動員成績として成績評価がされていました。教官室の机に閻魔帳があり、たまたま見たところ私には「多弁不平多し」として可の評価でした。動員中は授業を一切受けていないシテストもなく成績をどのような基準で評価したのか知りたく、後日夜間に指導教官の家を数人の友達と訪ねましたが、若い奥様のもてなしで話題にできず退散したことを思い出します。

今問題となっている格納庫にまつわることで、東南海地震の発生した時間に私は友達とゼロ戦の翼から燃料を抜き取る作業を始めました。その時、飛行機が前後に揺れ始め誰か悪戯しているのかと思い周囲を見ると、格納庫の中の数機の機体が同じように前後に同じリズムで揺れていました。地震と感じて外に出ようとしたが歩けなかったことを思い出します。

【会報9号原稿「歸國」公演報告】

市民会館を感動のルツぽに「歸國」鈴鹿公演、成功裡に終わる

倉本聰・富良野GROUP「歸國」の公演が8月21日、鈴鹿市民会館でありました。会場は感動のルツぽとなり、万雷の拍手で幕を閉じました。公演後のロビーでは、倉本さんのお礼の握手会があり、その前では「鈴鹿市の戦争遺跡パネル」が展示されました。会報も折り込み、多くの観客に「市民の会」のメッセージを届けることができました。来場者アンケートは285枚も寄せられ、反響の大きさを物語っています。その一部を紹介します。(加藤二三子)



- ・すごく良かったです。戦争は嫌です。多くの人たちの人生をメチャクチャにしたんだと思います。私は若く当時を想像することしかできないのですが、若い世代の責任として、これからも伝えていくべきテーマだと思っています。それと、母親や家族を改めて大事にしていこうと思います。(津市 20代 男性)
- ・とても感動しました。日本は本当に豊か(生活面で)な国だと思いますが、それも自分たちの命をかけて国を守り、戦ってくれた先の皆様のおかげだということを実感しました。その反面、精神的な面では、失ったものも多くあるのは事実だと思います。そのことをしっかりと考えつつ、これからの人生に生かしていきたいと思います。(鈴鹿市 20代 女性)
- ・涙が止まりませんでした。戦争をまったく知らない私ですが、その現実をひしひしと感じました。戦争は誰が悪いというものではなく、1人1人、平和の大切さの意識さえしっかりしていれば、起こらないと思います。それぞれがそう認識することが大切だと思います。(鈴鹿市 30代 女性)
- ・戦争を描いた映画・劇・ドラマ等いろいろありますが、現代日本のもつ問題も取り入れながら、見るものに平和の意味を改めて問うものでした。(鈴鹿市 50代 女性)
- ・よくぞ65年前を振り返り、忘れられている戦死者の思いを表現してくれたと思います。(鈴鹿市 60代 以上 男性)

第3回戦争遺跡展示会のご案内

今年で第3回目を迎えた「戦争遺跡展示会」を今年も開催します。是非ごらん下さい。

☆期間；2010年11月27(土)～12月22日(水)

☆場所；鈴鹿市立図書館

☆内容；鈴鹿市の戦争遺跡の写真展示、等



昨年度の戦争遺跡展示会

【資料紹介】

鈴鹿海軍航空隊「上陸札」

「上陸札」とは海軍特有のもので、本来は艦艇から陸地に上陸する際に当直の上官に自分の所属や名前を書いてある木札を渡し、帰艦した時に受け取り、誰が戻ってないかを確認するためのものです。上陸札には2種類あり、乗組員の半数(右舷直と左舷直)が土日だけ上陸できる「半舷上陸」と夕食から翌朝の朝食まで上陸できる「入湯上陸」がありました。



鈴鹿海軍航空隊は艦隊ではありませんが、外出する時はこのシステムを使い、この木札を上官に渡して外出しました。土日は白子や神戸などの有力者の自宅や寺院など軍指定の下宿先に泊まり、飲食の接待を受けたり、映画などの娯楽で一時の休息を取りました。写真の上陸札は縦9 cm、横3 cm、厚さ1 cmの大きさで「左舷」の木札で、裏に「鈴鹿海軍航空隊」の焼印があります。(個人蔵)

格納庫保存を考える市民シンポジウム ご案内

- ◆と き **2011年1月22日(土)** 午後1時開場、1時半開会
- ◆と ころ **鈴鹿市文化会館けやきホール** (電話059-382-8111)
- ◆内 容
 - ①基調講演 「戦争遺跡保存の全国状況と鈴鹿の特色」(仮題)
講師；**十菱駿武**さん(戦争遺跡保存全国ネットワーク代表)
(山梨学院大学教授・文化財保存全国協議会代表委員)
 - ②パネルディスカッション「旧海軍格納庫保存と活用に向けて」
パネリスト；清水信さん(文芸評論家)ほか各界の市民(人選中)
- ◆入場無料
- ◆主 催 「格納庫保存を考える市民シンポジウム」実行委員会



編集後記 わたしたち市民の会が最も恐れていた「格納庫の取り壊し」が通告され、これを何とか食い止めるべく、署名等の活動を開始しました。なぜもっと早く保存運動を広め、各界に発していかなかったのかという遅きに失した感は歪めない。しかし、私たちの思いを誠実に発してNTT西日本や市を何とか動かす努力を最後までしていきたい。最近、かつてこの鈴鹿海軍航空隊で訓練し、戦争の犠牲者として散っていった隊員たちはこの格納庫の消滅の危機に何とと思うのであろうかと想像することがある。「私たちの死を無駄にしないためにも、この格納庫を保存して子どもたちに平和の大切さを伝えてくれ！」という声が聞こえてならない・・・

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代 表 加藤二三子、竹内宏行

〒510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47

電 話 059-388-6508

メール ta818hi@mecha.ne.jp

H P <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>